

CKJSだより

第65号

校長 松平 昭二

shoji_matsudaira@hotmail.co.jp

職人さんに学ぶ

最近、永六輔さんの『職人』(岩波新書)という本を楽しく読みました。いろいろな職人さんの生の声や対談をまとめたものです。その中で、なかなか厳しい言葉にぶつかりました。別段、教育について述べた言葉ではなかったのですが、私の心を強くとらえました。いくつか紹介します。()内は私見です。

★ 「近頃の若い連中だって、きちんと説明してやれば、けっこう仕事はこなしてくれます。やあ、見事なものだと思ふときもあります。『好きなようにやってみな』という、何もできないのが不思議です」
(同感です。人柄は優しいのですが、指示待ち人間が多く、創造的知性という点で弱いようです)



★ 「こら、あまり勉強すると、バカになっちゃうぞ」
(知・徳・体のバランスが強調されています。逆にこう言いたくなるほど、勉強してくれたらなとも思いますが……)

★ 「教えるということは教わることです」
(教職もそうです。子どもに教わることを忘れてたら、教師としての成長は、たちまちストップしてしまいます)

★ 「子どもは親のいう通りに育つものじゃない。親のする通り育つんだ」
(わかっていながら、ついガミガミ言ってしまうのが親、そして教師のサガなのでしょうか)

★ 「他人と比較してはいけません。その人が持っている能力と、その人がやったことを比較しなさいけません。そうすれば褒めることができます」

(このこともわかりすぎるほどわかっていながら、つい他人と比較してしまいます。その子ならではの個性を認め、心から褒めることの難しいこと……)



★ 「苦勞なんて耐えるもんじゃない。苦勞は楽しむものです」
(子育てを楽しめる境地にたどりつきたいものです。こう言ってみたい、いつの日か)